目　　次

はじめに …… 1

第一章　孟　　春

1．出自・幼年期

——父親の教育・厳しくあたたかい躾 …… 3

(1)　ノビノビやんちゃ坊主 …… 3

(2)　三河内の鳥居武右衛門 …… 3

2．少年期・東京時代

——パッショネートな文学少年 …… 7

第二章　青　　春

——環境と人に恵まれた青春充電の日々・東京時代

1．盲詩人エロシェンコと

バハイのアレキサンダー女史との邂逅 …… 10

(1)　エロシェンコ、エスペラントとの出会い …… 13

(2)　アグネス・アレキサンダーとの出会い …… 16

2．エスペラントについて …… 17

(1)　日本の盲人とエスペラント …… 17

(2)　エスペラントによる国際交流 …… 18

3．バハイ教について …… 19

4．中村屋のサロンと相馬愛蔵・黒光夫妻 …… 24

5．出会い

——「私の財産は友だち」（鳥居のことば） …… 27

第三章　朱　　夏

社会人——教育者・愛盲の人として羽搏く

1．「盲目宣言」——三重盲教員時代 …… 29

2．京盲時代
——教育者として大きく羽搏く …… 33
(1) 理療科教員・副校長 …… 33
(2) 「世界に眼を」——渡欧日記「垣のぞ記」 …… 35

第四章　白　　秋
盲人福祉——愛盲の人として内外に羽搏く
1．愛盲の花馥郁としかおる
——ヘレン歓迎の辞 …… 37
2．京都ライトハウス成る …… 39
3．大愛の師鳥居嘉三郎先生 …… 42
4．仏教とのかかわり
——「慈眼視衆生」 …… 45
(1) 仏眼協会・弘誓社
——山本暁得と仏教図書出版に協力 …… 46
(2) 慈眼協会
——友松円諦師の慈眼愛盲運動に協力 …… 48
(3) 壷　阪　寺
——香りの花いっぱい運動に協力 …… 50
5．救癩活動
——「癩盲」と舌読 …… 51

第五章　玄　　冬
——盲人は独立すべし、されど孤立すべからず
（鳥居のことば）
1．無冠「文筆の人」に
——「すてびやく」執筆 …… 53
(1) 父の日記と思い出 …… 56
(2) 鐘の音 …… 57

2．うたびとトリイ …… 60
3．私の大きな財産 …… 66
⑴　よき友だち …… 66
⑵「人間トリイ」とわたし …… 70
⑶　生涯の伴侶――伊都夫人 …… 76
4．鳥居語録 …… 80

○京都市名誉市民　鳥居篤治郎氏市公葬式次第
（付略歴・遺詠・挽歌） …… 82
○主たる役職等 …… 85
○参照文献 …… 86
おわりに …… 88